

説明文を「正確に読み解く」学習から論理的な発信・交流へ

—「イースター島にはなぜ森林がないのか」(小学校六年)を例に—

佐藤 洋一 (愛知教育大学国語教育講座)

尾崎 和美 (岡崎市立岩津小学校)

(2006年10月30日受理)

How to make pupils understand the intention in an essay correctly for bringing them logical expressions of their own opinions and a fruitful discussion

— A class for the 6th grade dealing with “Why are there no forests in Easter Island” —

Yoichi SATO (Department of Japanese Languages, Aichi University of Education)
Kazumi OZAKI (Iwazu Elementary School, Okazaki)

要約 近年、学習者主体の言語活動を生かした「話す聞く」国語科学習が「伝え合う力を高める」目標の実践として広がり深まった。その結果、児童達は表層的な話す聞く活動はできるが、「学びの質的な評価・交流」という面、すなわち論理的に豊かに聞き関わる力、個性的な発信と受信・交流評価の面では課題が多いのが実情である。文部科学省によるPISA型読解力向上の提言と啓発は、こうした実践レベルでの教育課題を克服し、児童達に真のコミュニケーション・情報リテラシー能力を各教科で育てるための、国家レベルでの方策ともいうことができる。本稿は、「説明文を『正確に読み解く』学習から論理的な発信・交流へ」と題し、「イースター島にはなぜ森林がないのか」(小学校六年・鷺谷いづみ)を例に、児童達に求められているコミュニケーション・情報リテラシー能力を国語科の側から育成する授業モデルを提案したものである。説明文教材を「情報理解・判断・構成・発信・評価の一モデル」として位置づけ、段階的な学習過程論・学習シートの開発と活用・自己学習能力につながる「振り返りシート」による到達度・理解度のチェック、学びの一般化等の実践事例のポイントを述べた。とりわけ、児童達の「正確で豊かな学びの質」を評価するために、まず情報を正確に(論理的に)「読み解く力=聞く力」が必要であること、また「話す聞く学力」は「読む聞く・書く力」等の各領域の関連を重視した方向が必要なのも実践的に論じた。これらの実践は文部科学省によるPISA型読解力向上の提言(2005)を、国語科の立場から実践・検証したものであるとできると考えている。

Keywords : 到達目標(評価基準), 説明文「授業モデル」, 学習過程, 学習シート

1 はじめに

—子どもの実態と求められる力—

コミュニケーション能力の育成の重要性が語られ、多くの取り組みが行われてきたことにより、子どもたちは人前で話すことへの抵抗は少なくなってきた。1対多、少人数グループ、クラスを二分化しての討論会など、場面は様々に与えられてはいるが、その話す内容は、マニュアル化しているだけで正確に聞き取れていないため、盛り上がりはいるが課題からかけ離れた部分にこだわってしまっている場合が多い。

子どもたちの話す内容について、基本的な構成力や選択・判断力、個性的な表現力を高める必要がある。

2 段階を踏み「到達目標」を明確にした授業の開発が不可欠

「話す・聞く」力を高めるためには、文章を正しく読み解くことと、内容を分かりやすく構成することを

段階的に学習させる必要がある。本文の内容を正しく読み解き、本文をモデルに発表原稿を分かりやすく書き、その学習を「話すこと・聞くこと」につなげていく。また、子どもたちに何を学べばいいのか、どんな力をつけていったらいいのかを明確に伝えることも大切なことである。学習全体を通して、各時間ごとの「到達目標(評価基準)」を明確にし、分かりやすい話し方・内容や、その子らしい着眼点や説得力等の正しい聞き取り方が楽しく身につく授業モデルを開発・提案する。

(1) 国語科の「到達目標(評価基準)」を明確にした授業づくり

学習振り返りシートや各時間の学習シートで、学習全体を通して自分はどんな力をつけたらいいのか、また、この1時間自分は何を頑張ればいいのかということを明確に子どもたちに示し、目標(評価)に到達し

ていくことができるようにする。

(2) 説明文の理解から発信までの5段階の学習過程

説明文教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」を情報の理解・判断・構成・発信させる〈学習モデル〉として扱い、説明文を「正確に読み解く」学習から論理的な発信・交流学習への段階的な学習過程を構成することで、言語技術の定着をはかる。

① 導入・基礎技術 (2時間)

学習意欲の喚起, 学習の見通し, 到達目標の明示

② 基本学習 (6時間)

「イースター島にはなぜ森林がないのか」(小六・東書)の内容理解

③ 発展的学習 (2時間)

教材の学習を踏まえた外来動物についてのスピーチ原稿の作成

④ 発展学習 (2時間)

スピーチの発信・交流・評価

⑤ 評価・一般化学習 (1時間)

学習の振り返り・学びの一般化・応用への視点等

(3) 学習シートの開発

学習シートを活用することで、「この1時間で何を学ばばいいのか」を明確にでき、学習シートの流れに沿って、文章を読み解くこと・書くことを苦手としている児童も、意欲的に取り組むことができる。また、構成・具体例などの文章の構成を正しく読み解く力、論理的に発信する力の基本も身につけさせることができる。

3 実践の概要

(1) 児童の実態

小学校高学年の児童は、コミュニケーション能力育成の取り組みの積み重ねにより、場に慣れ、人前で話すことへの抵抗は少なくなってきた。しかし、その内容は、スキルの言い方か、盛り上がってはいるが課題からかけ離れた部分にこだわってしまっている場合が多い。基本的な構成力や選択・判断力、個性的な表現力を高める必要がある。

(2) 学習目標

- ① 説明文を「正確に」読み解くことができる。
- ② 説明文を「論理的に」発信・交流することができる。

(3) 評価基準(規準)のポイント

- ① 教材文を正確に読み取ることができる。
【内容の正確な理解】
- ② 読み取った内容を、短い文にまとめることができる。
【正確な理解と再構成】

- ③ 外来生物の被害を紹介する話型と、論理的な内容構成を理解することができる。

【論理的な構成の基本】

- ④ 外来生物の被害についての情報を選択し、分かりやすく記述することができる。

【情報の選択と再構成】

- ⑤ 写真を提示して、分かりやすいスピーチをすることができる。

【説明技術の基礎・基本】

- ⑥ 友達のスピーチを聞いて、内容をメモしたり、意見をもったりすることができる。

【コミュニケーションの基礎・基本】

- ⑦ 自分や友達のスピーチの良さや改善すると良いところ(内容・話し方等)を見つけられる。

【自己評価能力】

(4) 学習指導計画(資料1 一次頁参照一)

4 教材の特質と生かし方

(1) 教材の特質と構造

教材には説明文「イースター島にはなぜ森林がないのか」を用いる。テレビや書物などで1度は目にしたことがあるだろうモアイ像が立ち並ぶイースター島。この島は、かつては豊かな森林に覆われていたのだが、その土地を荒地にしてしまったのは他ならぬ人間であった。この事実を教えてくれるこの文章は、広く社会への関心が高まり、新しい知識を得ることに喜びを感じる小学校6年生の子供たちにふさわしい教材であるといえるだろう。また文章としては、全体が「はじめ・なか・まとめ・むすび」と4段階の構成になっている。「なか」で森林消失の原因を詳しく具体例を挙げて述べられている点も、話す書く(発信)に生かせる部分である。

(2) 到達目標からみた教材の生かし方

教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」は、「はじめ・なか・まとめ・むすび」の4段階の構成、「なか」で森林消失の原因を、具体例を用いて分かりやすく述べられていることなどの点で、子どもたちが「論理的な文章の書き方」を学ぶ際の「1つのモデル」となる教材といえる。

ただ、子どもたちが文章を書く際のより分かりやすいモデルとなるように、具体例を示す際に使われる言い回しを分かりやすく示し、「まとめ・むすび」をシンプルな形に変えるというように、一部修正加筆を行った。

資料 1 学習指導計画 (13時間完了) — 導入・基礎学習から評価・一般化へ —
 ※つける国語学力 (到達目標) と評価、言語活動と指導・支援・学習シートの開発と活用の位置を明確にした
 「指導過程 (学習過程) 論」

段階	時	主な学習活動	評価の観点と指導・支援 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> …… 評価基準 </div>				
導入・基礎技術	1	1 学級全体で巨像クイズをする。 (1)巨像の名前を当てる。 (2)巨像に込められた思いを考える。 2 教材文「イースター島にはなぜ森林がないのか」の範読を聞き、感想を書く。 3 学習の見通しをもつ。 →学習振り返りシート (資料 2)	1 様々な巨像をクイズ形式で紹介し、教材文に登場するモアイ像への関心をもたせる。 3 学習振り返りシートで、学習の計画と各時間での到達目標を明確に子どもたちに示し、何をがんばればいいのかを理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 1 モアイ像・イースター島について興味や関心をもつことができたか。 2 学習の計画と到達目標を理解することができたか。 </div>	発展的学習	9	1 生態系破壊についての発表原稿の書き方を学ぶ。 →原稿モデル (資料 9) (1)問題提起の言葉・つなぎ言葉を考える。 (2)資料を元に、生態系破壊の具体例をまとめる。 (3)教師の「むすび」の例を書き込ませる。	1 (1)問題提起やまとめの言葉、具体例のつなぎことばが穴埋め式の原稿モデルを使い、文章の流れを理解させる。 (2)資料の中のどんな観点を見つけたらいいのか明確に示すような資料を提示する。 2 (1)調べてきた資料・教師の用意した資料の中から、自分が紹介したい外来生物を選ばせる。 (2)キーワード・キーセンテンスに誤りがないように、個別に支援をする。 (3)前時の原稿モデルを参考に発表原稿を書かせる。 (4)「イースター島・…」の学習も振り返りながら、自分の言葉でまとめていくように支援する。
	2	4 語句の確認、段落分けをする。 5 教材文を音読する。	2 紹介したい外来生物を選び、発表原稿にまとめる。 →発表原稿 (資料 10) (1)人間の利益のために連れてこられた生物・ペットとして連れてこられた生物の2種類を選ぶ。 (2)原稿に書き込むためのキーワード・キーセンテンスに線を引く。 (3)発表原稿用紙に書き込んでいく。 (4)「まとめ」「むすび」に自分の意見やメッセージを書く。		10	1 問題提起やまとめの言葉、つなぎ言葉を正しく入れながら、発表原稿を書くことができたか。 2 生態系破壊への自分の思いを「むすび」にしっかりと書くことができたか。	
基本学習	3	1 全体の構成を読み取る。 2 「はじめ」の段落から、筆者の問題意識を確認する。 →学習シート① (資料 3)	1 キーワードを穴埋め式にした学習シート①を使い、本文の大まかな内容と説明文の文章構成を理解させる。 2 筆者の問題意識を確認する。	発展学習 (評価・一般化)	11	1 写真を提示しながら、話し方を工夫して3人グループで原稿を発表し合う。 (1)友達の発表の内容・話し方を評価する。→相互評価カード (資料 11) (2)自分の話の聞き方を評価する。 →聞き方自己評価カード (資料 12)	1 相互評価カード・聞き方自己評価カードなどを使用することで、話し方・聞き方の基礎・基本技術を身につけさせる。 (1)友達への意見は、評価カードの観点をもとに指摘するように伝える。 (2)評価した観点は、今後のスピーチや話し合いで生かすことができることを知らせる。
	4	3 「なか1・2・3」「まとめ」からイースター島の歴史を読み取る。 →学習シート② (資料 4)	3 年代と生き物の生存・森林の有無を表にした学習シート②を使い、イースター島の歴史を理解させる。		12	2 クラス全員の前で発表する。 (1)数名のスピーチを聞き、内容をメモする。 →聞き取りカード (資料 13)	2 聞き取りカードを使ってスピーチの内容をメモすることで、相手の伝えたいことを正しく理解しながら聞く力を身につけさせる。
	5	4 「なか2」から、森林破壊の原因を読み取る。 →学習シート③ (資料 5)	4 キーワードを穴埋め式にした学習シート③を使い、森林破壊の原因を理解する。		13	3 学習全体を通して、分かったこと・思ったことなどをまとめ、発表する。 →まとめカード (略)	3 文章構成、キーワードの定義、話し方・聞き方などの学習は、今後の読書活動・文章作りなどでも生かすことができることを知らせる。
	5	5 原因を短い文にまとめる。 (1)キーワードと要旨を短くまとめるポイントを学ぶ。 →学習シート④ (資料 6)	5 (1)学習シート④でキーワードの定義と要旨を短くまとめるポイントを確認する。 (2)～(4)各自→3人グループ→クラス全体と段階を踏んで話し合っていく、より良い要旨のまとめ方を学習していく。				1 話し方や聞き方に気をつけて発表会を行うことができたか。 2 自分や友達の発表の良さを見つけることができたか。 3 学習全体を振り返り、分かったこと・思ったことを書くことができたか。
	6	(3)3人グループでまとめる。 (4)グループの意見を出し合う。	6 学習シート⑤を使い、5の活動を繰り返すことにより、文章を理解し再構成する力をつけさせる。				
	7	6 「なか3」から、森林破壊の原因を読み取り、要旨をまとめる。 (5(2)～(4)と同じ流れ) →学習シート⑤ (資料 7)	7・8 キーワード・キーセンテンスを穴埋め式にした学習シート⑥を使い、本文の課題の答と、筆者のメッセージを理解させる。				
	8	7 「まとめ」から、本文の課題の答を読み取る。 →学習シート⑥ (資料 8)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 1 本文の内容を正確に理解することができたか。 2 森林破壊の原因を、キーワードを押さえた分かりやすい短文にまとめることができたか。 3 説明文の論理的な構成を理解できたか。 </div>				
	8	8 「むすび」から、筆者のメッセージを読み取る。					

5 指導の実際

(1) 導入・基礎技術 (2時間)

導入として、自由の女神、スフィンクス、奈良の大仏など、世界各地の巨像についてのクイズを出した。楽しそうにクイズに取り組む子どもたちに、その中の一つのアモイ像に込められた願いを考えさせた。その後、教材を教師が範読し、感想を書かせた。次に**学習振り返りカード (資料2)**を配布し、アモイ像が立っている理由とイースター島の歴史について読み解くこと、発展学習で生態系の破壊問題についてのスピーチをすることを知らせた。

単元前に、学習全体の目的と方法を明確に示すことで、学び方と自己評価能力を育てることに留意した。

(2) 基本学習 (6時間)

基本学習では、学習シート①②③⑥を使って、教材文の内容を正確に読み解いていく。

学習シート① (資料3)では、本文の大まかな内容と文章全体の構成を理解させた。学習シートに取り組む中で、本文中のキーワードを見つけ出し、「はじめ」と「まとめ」のつながりを理解できるように作成した。また、単元後半の発表も意識し、資料の意味や有効性についても考えさせるようにした。

学習シート② (資料4)では、イースター島の歴史をまとめさせた。年代・生き物・森林と並べて整理していくことで、人間の上陸とその行動によって森林が破壊されていったことを理解させるようにした。

学習シート③ (資料5)では、森林破壊の原因の二つを読み取っていった。原因とその目的を順に整理させていった。子どもたちは、人間の森林伐採と人間が連れてきたラットが原因で森林が破壊してしまったことを理解できた。またその際、内容の理解だけでなく、具体例の示し方・接続語などの文章表現力も学ばせ、単元後半の発表原稿を書く際の支えとなるように意識した。

学習シート④ (資料6) ⑤ (資料7)では、学習シート③を使って文の要旨をまとめる学習を行った。キーワードの定義、まとめ方などを学ばせ、個人で考えさせた後に、グループで意見を言い合いまとめる活動を行った。④⑤と2回同じ学習を行うことで、前時の学習を生かして文の要旨をまとめる力の高まりを子どもたち自身が実感でき、学習の手ごたえを感じていた。

この学習シートで書き込んだキーワードをつなげて要旨をまとめる学習活動で、情報を正確に理解し、再構成する力を育てることができる。

学習シート⑥ (資料8)では、「まとめ」と「むすび」の読み取りを行った。「はじめ」での筆者の課題の答えをまとめさせ、その後のイースター島についても整理させた。また、「むすび」からは、筆者のメッセージを読み取らせた。

(3) 発展的学習 (2時間)

発展的学習では、外来生物による生態系破壊の実態をまとめた文章の**原稿モデル (資料9)**を児童に配布した。原稿の題材としては、様々なものが考えられたが、「外来生物」としたのは、

- ①イースター島の森林を破壊した原因の一つであること、
- ②カミツキガメなどが昨今ニュースや新聞を賑わせており、とてもタイムリーなこと、
- ③生き物が子どもたちにとって身近で取り組みやすい題材であること、
- ④一番は、「外来生物」の影響や被害を学ぶことは、まさに人間の姿を学ぶことになる、という理由からである。

原稿モデルは、教材文を元にして教師が作成し、教材文での学習した文章の構成・具体例の示し方・つながり言葉などを復習させ、論理的な構成の基本を理解させるためのものである。

その後、様々な外来生物についての資料から、利益をもとめて連れてこられた生物・ペットとして連れてこられた生物の2種類を選択させ、前時の原稿モデルを参考にし、その被害と影響についての**発表原稿 (資料10)**を書いていった。原稿モデルで書き方を学んだこともあり、子どもたちの多くは、短時間でスムーズに書いていくことができた。

(4) 発展学習 (3時間)

発展学習では、調べた生物についての発表を行った。発表は、3人グループ・クラス全体と段階を踏んで行い、互いに評価し意見を言い合うことで、発表技術や内容を高めていくようにした。3人グループでの発表練習では、子どもたちに**相互評価カード (資料11)**、**聞き方自己評価カード (資料12)**を配布し、「話すこと・聞くこと」の評価基準を示した。評価基準を示すことは、話し方・聞き方のポイントを明確に示すことにもなり、説明技術の基礎・基本を学ぶことになる。子どもたちは、互いの発表の良いところ、改善したところがいいところはどこなのかを教え合うため、また自分の発表に生かすために、とても熱心に発表を聞き、評価していた。また、クラス全体での発表の際には、**聞き取りカード (資料13)**を配布し、内容のメモをとらせた。子どもたちの聞く力を高め、コミュニケーションの基礎・基本を身につけさせた。

単元の最後には、まとめカードを書かせ、学習全体を振り返り、自己評価能力を高めていくようにした。

資料2 学習振り返りシート

一学習の目的と方法の明確化／学び方と自己評価能力を毎時間ごとの「めあて」という形で焦点化して指導する

※授業の開始時に読み上げ、本時の学習の目的と方法を確認する。授業終了時、四段階のモアイ像を色塗りし、理解度・つまずきの自己評価をする。

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
学習全体を振り返り、これらを確認し、つまずきを訂正する。	友達の前で自分の学習内容を発表し、つまずきを訂正する。	自分の学習内容を発表し、つまずきを訂正する。										

「イースター島にはなぜ森林がなののか」学習振り返りシート
 授業の振り返りシート
 名前

資料3 基本学習：学習シート①

一教材をモデルに「論理的な構成」の型、キーワード、資料選択などについて理解させる

※文章全体の構成を確認し、キーワードを書き込む。「はじめ」と「まとめ」の論理的な一貫性を理解し、資料選択の意味と有効性を考える。

学習目的	はじめ	なか1	なか2	なか3	まとめ
イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ
イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ

「イースター島にはなぜ森林がなののか」学習シート①
 文章の組み立てと内容を整理しよう
 六月 十二日 名前

資料4 基本学習：学習シート②

一結論・考察に対応した「具体例」の選択と構成方法、説明技術の特色（歴史的、数字、場所など）を理解させる

※年代・生き物（哺乳類・鳥類）・森林に分けてイースター島の歴史を書き込んでいく。人間の登場により森林が破壊されたことを理解する。

まとめ	なか3	なか2	なか1
イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ
イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ	イースター島の歴史を学ぶ

「イースター島にはなぜ森林がなののか」学習シート②
 イースター島の歴史を整理しよう
 六月 十三日 名前

資料8 基本学習：学習シート⑥

一筆者の結論(むすび)・考察(まとめ)を正確に理解させ、論理的な文章を書く方法に気づかせる

※「まとめ」「むすび」から、キーワードを書き込んでいく。「はじめ」での課題の答えを理解させ、「まとめ」「むすび」の書き方を学ぶ。

むすび		まとめ	
26	25	24	23
メッセージ2	教えと筆者のメッセージ1	その後のイースター島	課題の答え
<p>かかっているのではなからうか。</p> <p>「祖先を敬つた」→「イモイ像を造ること」</p> <p>「子孫に誇りをもつ」→「文化を子孫に伝えること」</p>		<p>① 森林がなくなると、鳥や動物が住めなくなり、生態系が壊れる。</p> <p>② 丸木船が壊れると、島に物資が運ばれなくなり、生活が困窮する。</p> <p>③ 食料不足になると、争いが起き、島が荒れる。</p> <p>④ 人口が増えすぎると、資源が枯渇し、島が滅亡する。</p>	<p>① 森林がなくなると、鳥や動物が住めなくなり、生態系が壊れる。</p> <p>② 丸木船が壊れると、島に物資が運ばれなくなり、生活が困窮する。</p> <p>③ 食料不足になると、争いが起き、島が荒れる。</p> <p>④ 人口が増えすぎると、資源が枯渇し、島が滅亡する。</p>

「イースター島」にはなぜ森林がないのか
 三月三日 名前

資料9 発展的学習：原稿モデル

一教材の論理性を生かしつつ、児童が構成しやすいように、段落の意味や役割を明示した学習シートを開発した

※教師が作成した原稿にキーワードや接続語を書き込んでいくことで、発表原稿の書き方(モデル)を理解する。

むすび	まとめ	なか1	なか2	なか3	はじめ
聞き手へのメッセージ・学んだこと考えたこと	課題の答え・まとめ	そのほか	なか1	なか2	はじめ
<p>現在、日本の外来生物は増加傾向にある。その原因は、人間の活動によるものである。人間が海外から動物や植物を持ちこたせ、日本に定着させている。その結果、日本の生態系が壊れ、多くの生物が絶滅の危機に瀕している。これは、人間の活動がもたらした深刻な問題である。</p>	<p>外来生物とは、人間が海外から持ちこたせた生物のことである。人間が海外から動物や植物を持ちこたせ、日本に定着させている。その結果、日本の生態系が壊れ、多くの生物が絶滅の危機に瀕している。これは、人間の活動がもたらした深刻な問題である。</p>	<p>そのほか、人間が海外から持ちこたせた生物の中には、有害な生物も含まれている。有害な生物は、日本の生態系を壊れ、多くの生物を絶滅させている。これは、人間の活動がもたらした深刻な問題である。</p>	<p>なか1、なか2、なか3は、それぞれ異なる観点から、外来生物の問題について詳しく説明している。なか1は、外来生物の増加の現状について、なか2は、外来生物の増加の原因について、なか3は、外来生物の増加の影響について説明している。</p>	<p>なか1、なか2、なか3は、それぞれ異なる観点から、外来生物の問題について詳しく説明している。なか1は、外来生物の増加の現状について、なか2は、外来生物の増加の原因について、なか3は、外来生物の増加の影響について説明している。</p>	<p>はじめ、課題の答えを述べ、その後に、なか1、なか2、なか3の内容を要約して述べている。最後に、むすびで、自分の考えやメッセージを述べている。</p>

「外来生物」についての発表原稿を書こう
 七月二十日

資料10 発展的学習：発表原稿の作成とチェック

一発表原稿は全員が書け、その子らしい工夫や着眼点も出るように工夫し、良さや課題は朱記する

※自分が調べた外来生物について発表原稿を書く。「なか1」「なか2」の具体例と、「むすび」の考えやメッセージは各自で書いていく。接続語や問かけの言葉などは、確認や理解のために書き込ませる。

むすび	まとめ	なか1	なか2	なか3	はじめ
聞き手へのメッセージ・学んだこと考えたこと	課題の答え・まとめ	そのほか	なか1	なか2	はじめ
<p>現在、日本の外来生物は増加傾向にある。その原因は、人間の活動によるものである。人間が海外から動物や植物を持ちこたせ、日本に定着させている。その結果、日本の生態系が壊れ、多くの生物が絶滅の危機に瀕している。これは、人間の活動がもたらした深刻な問題である。</p>	<p>外来生物とは、人間が海外から持ちこたせた生物のことである。人間が海外から動物や植物を持ちこたせ、日本に定着させている。その結果、日本の生態系が壊れ、多くの生物が絶滅の危機に瀕している。これは、人間の活動がもたらした深刻な問題である。</p>	<p>そのほか、人間が海外から持ちこたせた生物の中には、有害な生物も含まれている。有害な生物は、日本の生態系を壊れ、多くの生物を絶滅させている。これは、人間の活動がもたらした深刻な問題である。</p>	<p>なか1、なか2、なか3は、それぞれ異なる観点から、外来生物の問題について詳しく説明している。なか1は、外来生物の増加の現状について、なか2は、外来生物の増加の原因について、なか3は、外来生物の増加の影響について説明している。</p>	<p>なか1、なか2、なか3は、それぞれ異なる観点から、外来生物の問題について詳しく説明している。なか1は、外来生物の増加の現状について、なか2は、外来生物の増加の原因について、なか3は、外来生物の増加の影響について説明している。</p>	<p>はじめ、課題の答えを述べ、その後に、なか1、なか2、なか3の内容を要約して述べている。最後に、むすびで、自分の考えやメッセージを述べている。</p>

「外来生物」についての発表原稿を書こう
 七月二十日

6 実践の考察

(1) 国語科の「到達目標（評価基準）」を明確にした授業づくりの実際と検証

学習全体を通して、自分はどうな力をつけたらいいのか、また、この1時間自分は何を頑張ればいいのかということを明確に子どもたちに示し、指導事項を絞ることで、子どもたちははっきりした目標をもって楽しく学習に臨むことができる。

今回の実践においては、生態系の変化と因果関係、筆者の着眼点などについて、各自発表するという目標をもって、本文を読み解く段階、原稿を書く段階それぞれに、自分の原稿や発表に生かそうと意欲的に学習に取り組む姿勢が見られた。また、グループで話し合う際も、集中力を欠くことなく、互いの発表を良くしようと、それぞれに考えを伝え合う様子が見られた。

(2) 5段階の学習過程の有効性

導入・基礎技術（学習意欲の喚起、学習の見通し、到達目標の明示）→基本学習（「イースター島にはなぜ森林がないのか」（小六・東書）の内容理解）→発展的学習（「イースター島にはなぜ森林がないのか」の学習を踏まえた外来動物についてのスピーチ原稿の作成）→発展学習（スピーチ原稿の発信・交流・評価）→評価・一般化学習（学習の振り返り）という5段階の学習過程で学習を進めたことにより、テンポよく学習を進めていくことができた。学んだことを次に生かすという、段階を踏んだ学習を繰り返していくことで、言語技術の基礎から発展までの定着を図っていくことができた。

(3) 学習シートの開発と有効性

「この1時間で何を学ばばいいのか」を明確に示し、指導事項を焦点化した学習シートを活用したことにより、文章を読み解くこと・書くことを苦手としていた児童も、意欲的に取り組むことができていた。また、構成・具体例などの文章の構成を正しく読み解く力、論理的に発信する力の基本も身につけさせることができた。キーワードや考えを書き込むだけでなく、学習内容をまとめ、振り返ることのできる学習シートを開発していく必要を感じた。

7 まとめにかえて

— 学会当日の質疑応答（一部の紹介） —

Q1: 「話すこと・聞くこと」分科会なのに、「書くこと」に重点を置いているようだが。

A: 今求められている話す・聞く力の中心は、音声化・声の調子・間のとり方といったことではない。自分の考えを分かりやすく論理的に組み立て・伝える力、それを正確に聞く力である。そういったことは、読むこと・書くことをちゃんと通過させないと力が出ない。

Q2: どの程度、子どもたちに目的意識をもたせたのか。

A: 子どもたちの生活に根付いた学びの目的や願いは大切である。しかし、子どもたちだけでは価値ある課題を導き

出すことは難しい。教師がまず、どういった課題が学習にとって価値があるのかを示してやり、そうした活動を繰り返し行うことで、子どもたちだけでも課題意識・目的意識がもてるようにしてやりたい。

Q3: 振り返りシートは、子どもたちがどうなりたいと臨んでできたのか。

A: 子どもたちの実態と、教師のつきたい力を合わせて作ったもの。子どもたちに自己学習力（他教科・人間関係なども含めて）をつけていくための学び方や到達目標を示したものが振り返りシートである。学習が知的で楽しいと思えるためには、方法や評価がはっきりしていることが大切。教師は振り返りシートを見て、子どものつまずきを見つけ、授業改善につなげていく。

8 おわりに

文章を正確に読み解く力、説明文を論理的に構成・発信する力については、子どもたちの力は少しずつ高まってきたことを感じられた。しかし、個性的な表現力や評価方法についてははまだ不十分である。自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えるための具体例の選択や表現力が身につくように、今後も授業展開の工夫・学習シートの開発をしていきたい。

<付記>

本稿は、尾崎による第69回国語教育全国大会（日本国語教育学会主催、2006年8月8日～9日、青山学院大学）での発表内容を補筆・修正したものである。なお、紙面の制約上、児童のスピーチ原稿やスピーチ資料としての写真、作成した学習シートの細部に関する詳細と考察は省略したことをお断りする。

<主な参考文献>

- 1 佐藤洋一編著『国語科を核に総合的学習を創る』（明治図書・2000）
- 2 佐藤洋一編著『実践・国語科から展開するメディア・リテラシー教育』（明治図書・2002）
- 3 佐藤洋一 連載「到達目標としての『言語技術』」「教育科学国語教育」（明治図書2003. 4～2004. 3/2004. 4～2005. 3）
- 4 尾崎和美 「評価を通して互いを高め合うことのできる授業」（『新しい国語実践』の研究会提案資料2003）
- 5 佐藤洋一・松木尚美 「ファンタジー（物語）の『読み方』の基礎・基本から「発信」へ」（愛知教育大学教育実践総合センター紀要9号、愛知教育大学・2006）
- 6 佐藤洋一・千崎晶美 「“写真リテラシー”の基礎・基本学習から発信・評価学習へ」（愛知教育大学教育実践総合センター紀要8号、愛知教育大学・2005）
- 7 鈴木篤夫『イースター島の悲劇 倒された巨像の謎』（新評論・2002）
- 8 田部井満男『世界遺産ふしぎ探検大図鑑』（小学館・2001）
- 9 琵琶湖博物館 インターネット資料「琵琶湖博物館電子図鑑 外来生物」（琵琶湖博物館）
- 10 五箇公一 インターネット資料「侵入生物データベース」（国立環境研究所）